

建設経済委員会行政視察報告書

日 時	平成26年5月14日（水）午後1時00分から午後3時00分
視 察 先	香川県三豊市
視 察 項 目	定住促進施策について
視 察 者	委員長 夏目 豊 副委員長 林 秀人 委 員 古俣泰浩、渡邊眞弓、江端菊和、勝崎泰生、近藤久義
視 察 内 容	<p>三豊市の「定住促進施策」は、減少を続ける人口に対処するため、平成26年度から取り組む新総合計画後期基本計画の重点プロジェクトに「住んでみるなら三豊が一番！」をキャッチフレーズとして掲げ、移住・定住促進対策を推進する事業である。このプロジェクトの目標は、移住・定住に係る様々な施策の実施により、30年度における人口6万5,000人を確保することであり、担当部署の田園都市推進課を中心に同計画に基づく政策を進めている。</p> <p>主な施策としては、若者定住促進・地域経済活性化事業、空き家バンク制度、若者定住促進・地域経済活性化リフォーム事業（平成26年5月からは、住宅リフォーム・地域活性化事業）などを行っているほか、同市への定住準備のための短期滞在者や、合宿で訪れる学生に対して市内で利用できる三豊市商品券を贈呈する制度もある。</p> <p>また、これらの定住促進施策の総合的な情報発信手段として、専用ウェブサイトである移住・定住ポータルサイト「みとよ暮らし手帳」（空き家バンク物件情報、定住促進サポート情報、生活情報、定住・移住に関するよくある御質問、定住者のインタビュー、メールマガジン配信、ハローワーク求人情報、移住フェア参加などのお知らせ）を開設・運営している。</p>
所 感	<p>定住促進施策は、三豊市において長く続く人口減少に歯止めをかけるために、空き家バンク制度や若者の住宅取得に係る支援などの事業を展開し、生産年齢人口の増加を目指す取り組みであり、本市においても、今後大きな問題となることが予測される空き家の増加や人口減少に対応するための重要な施策である。</p> <p>同市においては、人口減少の大きな課題が自然減であることから、生産年齢人口の増加を図り、出生数を向上させることで人口増につなげる施策を講じていることが特徴的であった。また、他の自治体では、人口減少に対して若い世代を対象とした住環境や雇用環境の充実のため、企業誘致を行うことが多いが、同市の雇用環境は求人倍率1.5以上と、働く場所は十分にあると考えられる。昼夜間人口比率も90パーセント以上と高いため、人口減少を抱えている自治体としては好条件を有しながらも、人口が減り続けることは深刻な状況であると感じた。</p> <p>本市に置き換えて考えた場合、大幅な人口増のためには、三豊市のように生産年齢人口の増加を図るとともに、やはり企業誘致などの雇用環境の向上の必要性が感じられる。引き続き、企業誘致等の重要性を踏まえつつ、同市の若者世帯の住宅取得に対する補助、空き家バンク制度など様々な定住促進施策を参考とし、昨今の熾烈な自治体間の人口獲得競争の中で、本市としての特色ある施策を展開していくことが重要である。</p> <p>本市においても、定住促進や空き家対策は課題であり、今回の視察は総合的に定住促進施策に取り組む先進事例として、大変有意義な視察であった。</p>

日 時	平成26年5月15日（木）午前10時00分から正午
視 察 先	岡山県倉敷市
視 察 項 目	観光施策について
視 察 者	委員 長 夏目 豊 副委員 長 林 秀人 委 員 古俣泰浩、渡邊眞弓、江端菊和、勝崎泰生、近藤久義
視 察 内 容	<p>倉敷市の「観光施策」のうち今回の視察では、歴史的な建物が多く、文化財保護の観点から改修が難しい美観地区における、おもてなしマイスター制度と、くらしき観光大使についての概要や経緯、効果や評価、課題や今後の展開などについて視察を行った。</p> <p>おもてなしマイスター制度は、同市における主要な観光資源である美観地区において、同地区を訪れるお年寄り、障がい者、小さな子ども連れ、外国人などを対象としたバリアフリー化を進めるに当たり、伝統的建造物群保存地区及び伝統美観保存地区であることから条例等の規制を受けることなどの課題があるため、ハード面ではなく、ソフト面である人の手による心のバリアフリーをもって、来訪者におもてなしを行う人材を育成し、課題解決を図った制度である。</p> <p>また、くらしき観光大使については、平成19年に倉敷市出身の人気俗曲師で東京都在住の桧山うめ吉氏をくらしき観光大使に委嘱した。くらしき観光大使には、コンサート（高座）、ライブ、取材等において、たびたび倉敷市の話題に触れてもらうとともに、首都圏から同市への観光ツアーを実施されている。さらに、アメリカやヨーロッパといった海外での公演等においても、観光PRが積極的に行われることにより、同市の知名度向上の一助となっている。</p>
所 感	<p>倉敷市の観光施策のうち、おもてなしマイスター制度については、観光拠点である美観地区を対象に「バリアフリー化」「景観保全」「観光まちづくり」の視点から、来訪者全ての人が安全に、安心して楽しめるユニバーサルデザインによるまちづくりを目的としたことで、歴史的な保存地区であるがゆえに難しいハード面の整備を選択せず、地域住民等の「人の手」で解消しようとしたことが大きな特色である。特に、この制度が、障がいを持つ方からの「人の手でおもてなしをしてもらったことが大変印象に残っている」との言葉に応え、バリアフリーの整備ができないのであれば「心のバリアフリーを推進していこう」ということから発足したことは、大変印象的であった。</p> <p>くらしき観光大使については、取り組みを通じて、いかに自主的・積極的に情報発信をしていってもらうかが重要であることを学ぶことができ、平成25年からスタートした本市の同事業にとっても参考となった。</p> <p>本市においても、観光施策を一つの施策としてのみではなく、他の施策との連携によるより発展性を見据えた施策として研究していくことの必要性を感じるとともに、ハード面を補う市民一人ひとりのおもてなしの心を養うことの重要性を実感することができた大変有意義な視察であった。</p>